

## jp D2Hs のバージョンアップを完了されたお客様へのご案内

D2Hs ファームウェア Ver. 2.00 より、お手持ちの使用説明書に以下の機能の説明が追加されます。

### 連続撮影可能コマ数について (使用説明書 : P. 50)

D2Hs では **CH** (高速連続撮影) または **CL** (低速連続撮影) でシャッターボタンを押し続けると、最大 60 コマ (カスタムセッティング d2 [連続撮影時の撮影コマ数制限] (P.246) で変更可能) まで連続撮影が継続します。ただし、連続撮影速度を維持したままで撮影できるコマ数は、画質モードなどによって以下のように異なります。

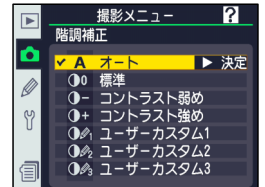
画質モード	連続撮影可能なコマ数
非圧縮 RAW 画像 + JPEG 画像	40 コマ
圧縮 RAW 画像 + JPEG 画像	40 コマ
非圧縮 RAW 画像	40 コマ
圧縮 RAW 画像	40 コマ
TIFF (RGB) 画像	40 コマ
JPEG 画像	50 コマ

表内のコマ数はすべて ISO100、撮影メニューの [長秒時ノイズ除去] (P.214) が [OFF]、[JPEG 圧縮] (P.212) が [サイズ優先] の場合です。

上の表のコマ数を超過してシャッターボタンを押し続けた場合、CF カードへの記録が終わったコマ数分だけ続けて撮影できませんが、連続撮影速度は低下します。

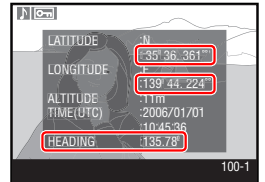
### 撮影メニュー [階調補正] について (使用説明書 : P. 87)

撮影メニューの [階調補正] のメニュー項目 [ユーザーカスタム] に、別売の Nikon Capture 4 (Ver. 4.4.2) または Camera Control Pro (Ver. 1.1.1) で定義したガンマカーブを最大 3 つまで登録でき、使い分けることができるようになりました。



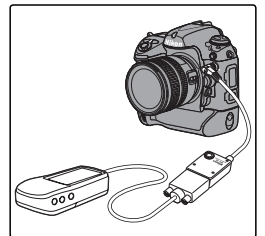
### GPS を使用した撮影について (使用説明書 : P. 163 / P. 171)

GPS を使用し、撮影した画像データに、撮影方位が記録されるようになりました。また、緯度、経度の秒の桁数が 3 桁まで表示されるようになりました。





#### 撮影方位について

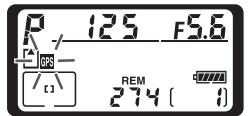
- 撮影方位は、電子コンパス内蔵の GPS 機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラから GPS 機器を 20cm 以上離し、撮影する方位に GPS 機器の向きを合わせてください。



#### GPS を使用した撮影について

GPS 機器と接続していても、GPS 通信マーク  が点灯するまで GPS データは記録されません。撮影時に上面表示パネルの GPS 通信マーク  が点灯していることを確認してください。

- GPS 機器のスイッチをオンにした直後など、GPS 通信マーク  が点滅する場合は、GPS 機器が取得している情報が確定していません。この場合、撮影を行っても、GPS データは記録されません。GPS 通信マーク  が点灯するまでお待ちください。

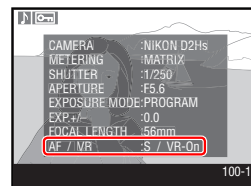


#### UTC について

UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GPS 機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録され、連動しません。

## 画像情報の表示ページ 3 への追加情報 (使用説明書 : P. 170)

画像情報の表示ページ 3 (撮影情報 1) にフォーカスモード、レンズの VR (手ブレ補正) 機能の ON/OFF の情報が追加されました。



## カスタムセッティング a4 [AF ロックオン] のメニュー項目の変更について (使用説明書 : P. 230)

カスタムセッティング a4 [AF ロックオン] のメニュー項目が以下のように変更されました。

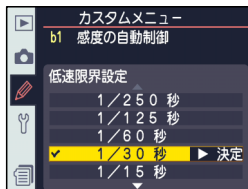
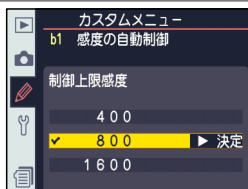
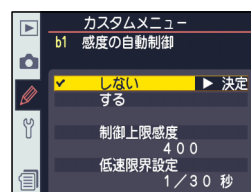
設定	内容
ON (強い)	被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合、一定時間経過してからこれに追従するようフォーカス動作を行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影の場合など、意図に反して障害物にフォーカス動作を行うことを防止します。
ON (標準) (初期設定)	被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するようフォーカス動作を開始するまでの時間が長い順に、[強い]、[標準]、[弱い] になります。
ON (弱い)	
OFF	被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合、ただちにこれに追従するようフォーカス動作を行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するような場合に有効です。



## カスタムセッティング b1 [感度の自動制御] の変更について (使用説明書 : P. 235)

カスタムセッティング b1 [感度の自動制御] の機能が下記のように変更されました。

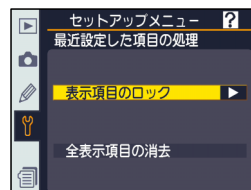
設定	内容
しない (初期設定)	露出の状態にかかわらず、撮影者が設定した ISO 感度に固定されます。
する	<p>設定 ISO 感度で適正露出が得られる場合は、撮影者が設定した感度で撮影が行われます。設定 ISO 感度で適正露出が得られない場合、カメラは [制御上限感度]、[低速限界設定] の設定内容にしたがって、自動的に感度を制御して適正露出にします (または適正露出に近づけます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>露出モードが <b>P</b> (プログラムオート)、<b>A</b> (絞り優先オート) の場合: [低速限界設定] で選択したシャッタースピードでは露出不足になる場合、またはシャッタースピードが 1/8000 秒でも露出オーバーになる場合に感度が自動制御されます。</li> <li>露出モードが <b>S</b> (シャッター優先オート) の場合: セットしたシャッタースピードで適正露出にならない場合に感度が自動制御されます。</li> <li>露出モードが <b>M</b> (マニュアル) の場合: セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に感度が自動制御されます。</li> </ul>
制御上限感度	<p>感度自動制御を行う場合の、ISO 感度の上限を設定します。この項目を選択してマルチセレクターの ▶ を押し、ISO 感度の上限を選択する画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ISO 感度の上限は、[400]、[800]、[1600] から選択できます。</li> <li>マルチセレクターの ▲ または ▼ を押し、ISO 感度の上限を選択し、▶ を押し、[感度の自動制御] 画面に戻ります。感度の自動制御を行う場合は、[感度の自動制御] 画面で [する] を選択してください。</li> </ul>
低速限界設定	<p>露出モードを <b>P</b> (プログラムオート)、<b>A</b> (絞り優先オート) にセットして感度自動制御を行う場合の、シャッタースピードの低速側の限界を設定します。ただし、シャッタースピードを限界まで低速にし、かつ [制御上限感度] の上限まで ISO 感度を上げて適正露出が得られない場合は、低速限界設定よりもシャッタースピードを長くします。この項目を選択してマルチセレクターの ▼ を押し、シャッタースピードの低速側の限界を選択する画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シャッタースピードの低速側の限界は、1/250 ~ 1 秒の範囲で選択できます。</li> <li>マルチセレクターの ▲ または ▼ を押し、シャッタースピードの低速側の限界を選択し、▶ を押し、[感度の自動制御] 画面に戻ります。感度の自動制御を行う場合は、[感度の自動制御] 画面で [する] を選択してください。</li> </ul>



## セットアップメニュー【最近設定した項目】の追加について（使用説明書：P. 267）

セットアップメニューに【最近設定した項目】が追加されました。このメニューにより、【最近設定した項目】メニュー画面に表示される撮影メニュー項目やカスタムメニュー項目をロックしたり、すべて消去することができます。

設定	内容
表示項目のロック	【最近設定した項目】メニューに現在表示されているメニュー項目のまま、ロックするかどうかを選択します。設定画面が表示されるので、マルチセレクターの▲または▼で【しない】または【する】を選択し、▶を押します。
全表示項目の消去	【最近設定した項目】メニューに現在表示されているメニュー項目をすべて消去するかどうかを選択します。設定画面が表示されるので、マルチセレクターの▲または▼で【しない】または【する】を選択し、▶を押します。



### 「最近設定した項目」メニューのカスタマイズ

【最近設定した項目】メニューを好みに合わせて作りかえるには、いったん【全表示項目の消去】を行ってから、登録したいメニュー項目を実際に操作します。これによって、【最近設定した項目】に操作したメニュー項目が順番に登録されていきます\*。メニュー項目の登録が終わったら、【表示項目のロック】を行います。これで、【最近設定した項目】メニューの内容がロックされます。

\* 登録できるのは最大 8 項目です。8 項目を超えた場合は、先に登録されたメニュー項目から順番に消去されます。

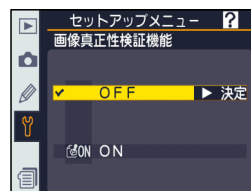
#### メニュー項目のロック、消去について


- 【最近設定した項目】に表示されるメニュー項目をロックまたは消去しても、各メニュー項目の設定内容がロックまたは消去されることはありません。
- 【表示項目のロック】を【する】に設定している場合でも、【全表示項目の消去】で【する】を選択すると、【最近設定した項目】メニューに表示されているすべてのメニュー項目が消去されますのでご注意ください。

## セットアップメニュー【画像真正性検証機能】の追加について（使用説明書：P. 267）

セットアップメニューに【画像真正性検証機能】が追加されました。このメニューにより、画像が撮影後に改ざんされていないかどうかを判別する「真正性検証情報」を画像に埋め込むことができます（真正性を検証するには、別売の「画像真正性検証ソフトウェア」が必要です）。高い信頼性が求められる業務などでの使用に便利です。詳しくは画像真正性検証ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。なお、すでに撮影した画像に、後から真正性検証情報を埋め込むことはできません。

設定	内容
OFF（初期設定）	真正性検証情報を埋め込みません。
ON	これから撮影するすべての画像に真正性検証情報を埋め込みます。



真正性検証情報が埋め込まれた画像には、画像情報の表示ページ 2 に真正性検証情報アイコン  が表示されます（P.169）。

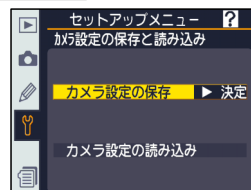
#### 転送時のご注意

- 「真正性検証情報」を埋め込んだ画像を PictureProject など転送する際は、カラープロファイルや IPTC 情報の埋め込み、縦位置画像の自動回転などのオプションを無効にしてください。これらのオプションを有効にして転送した場合、画像情報に変更が加えられるため、画像真正性検証ソフトウェアは、真正画像ではないと判断します。
- 画質モードが TIFF に設定されている状態で、Nikon Capture 4 (Ver. 4.4.2) のカメラコントロールまたは Camera Control Pro (Ver. 1.1.1) を用いてパソコンに撮影画像を保存する場合、【画像真正性検証機能】は無効となります。


## セットアップメニュー【カメラ設定の保存と読み込み】の追加について（使用説明書：P. 267）

セットアップメニューに【カメラ設定の保存と読み込み】が追加されました。このメニューにより、カメラの各種設定の状態を CF カードに保存したり、CF カードに保存されている設定状態を読み込んだりすることができます。複数のカメラを同じ設定で使用したい場合などに便利な機能です。保存や読み込みの対象となるのは、セットアップメニューの【ワールドタイム】の【日時設定】、【液晶モニター】の【明るさ】を除く、すべての状態です。

設定	内容
カメラ設定の保存	現在のカメラの設定内容を CF カードに記録します。
カメラ設定の読み込み	CF カードに記録されているカメラの設定情報を読み込みます。



## ローパスフィルターのお手入れについて (使用説明書 : P. 326)

バッテリー残量が十分な場合 (上面表示パネルに  が表示されている場合)、AC アダプターを接続しなくてもローパスフィルターの点検やクリーニングを行うことができますようになりました。

### 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、以下の点にご注意ください。

- 作業中に電源を OFF にしないでください。
- 作業中にバッテリーや AC アダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマー表示 LED が点滅してお知らせします。約 2 分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、ただちに作業を終了してください。